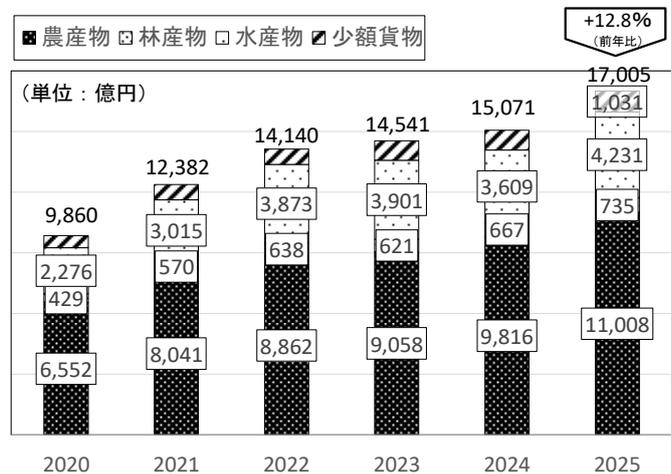


### 1 国の輸出方針と本県の現状

国は、2025年4月に策定した「食料・農業・農村基本計画」において、農林水産物・食品の輸出額を2030年までに5兆円とする目標を掲げています。

本県では、茶や加工食品の輸出は進んでいます。青果物については依然としてテスト輸出の段階にあります。

こうした状況を踏まえ、本県では産地と連携し、海外の日系店舗でのプロモーションを通じて現地ニーズの把握や輸送課題の抽出を行うなど、輸出拡大に向けた実践的な取組を進めています。



農林水産物・食品の輸出額の推移 (全国)

### 2 輸出推進体制の構築

今年度に、JA、関係市町、輸出商社、産地などで構成する「輸出推進会議」を設置しました。この会議では、海外の需要動向や植物検疫制度などを共有し、関係機関が一体となって農産物の輸出拡大に向けた連携体制の整備を進めています。

### 3 海外の日系店舗でのプロモーションの実施

昨年度に続き、海外バイヤーを産地に招いて生産現場の視察や農業者とのマッチングを行い、商品への理解を深めていただきました。

その上で、これらの商品を香港やシンガポールなどの日系店舗において、試食提供とSNSによる周知を組み合わせたプロモーションを行い、現地消費者のニーズ把握と県産農産物の認知度向上に取り組みました。特に、アジアで需要が高まっている赤肉メロンや使い切りサイズで扱いやすい小玉キャベツやミニ白菜、そのまま食べられるミニトマトなどは好評で、今後の輸出拡大に向けた手応えを得ています。



実施状況 (左: SNS 投稿、右: 店内)

### 4 オンラインツールの活用による販路開拓の支援

輸出意向のある食品事業者には、海外バイヤーとのオンライン商談の機会を提供し、商品 PR やプレゼン方法などの輸出に必要なスキル習得を支援しています。今年度は商談経験が少ない事業者を中心とした 11 事業者を対象に、円滑な商談に向けた事前研修会を実施し、アジアや北米など海外バイヤーとのオンライン商談会の機会を提供しました。